

西宮市議会議員

田中まさたけ

正 剛 市政・市議会報告



ホームページもご覧ください。

<https://masatake.jp/>

田中まさたけ

検索



人口減少がもたらす影響

少子化、高齢化、人口減少。これらにより生じる深刻な課題は、実感を伴って迫ってきています。私は初当選以来20年間、子供たちが大人になった時のことを考えて政策を提案してきました。しかし西宮市は、市役所の既得権を守るだけの「お役所仕事」を続け、再び深刻な財政悪化を招きました。私は、あきらめずに「子供たちに誇れる西宮をつくる」ため、山積する課題の解消に挑み続けます。

掲載内容 ● 令和4年度一般会計決算の概要 ● 水道管の老朽化対策 ● 人口減少対策
● 小・中一貫西宮浜義務教育学校 ● 介護保険事業の持続性

将来への投資を削り、将来世代にツケを残そうとする西宮市。市役所の既得権を排した聖域なき財政構造改革が急務です。

令和4年度
決算

■令和4年度決算も黒字ではありましたが…

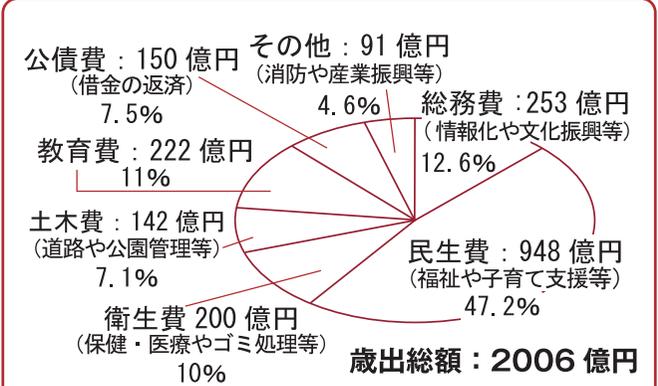
西宮市一般会計の令和4年度決算の歳出は、2006億円、黒字額は約4億円でした。しかし、

- 収支不足を補うために財政基金(貯金)を約21億円も取り崩す結果となり単年度では実質的には赤字です。また、
- 公共施設の老朽化対策などに必要な投資的経費を前年度より約29億円(16%減)も抑制し、課題を先送りしていることも問題視しています。

西宮市は財政の悪化を認め、本年10月に「**西宮市財政構造改善基本方針**」を発表する事態になりました。しかしまだ、明確な目標や具体的な改革の内容が示されていません。

今の西宮市には、定員を大きく下回っている公立幼稚園と待機児童を解消できない公立保育所を統合して設置される「**認定こども園**」を公立では

なく民間に委ねるなど、市役所の既得権を排した大胆な改革が必要です。そうした改革ができないようであれば、市民に負担を押し付けるだけの目の先の経費削減が進められることになると考えています。引き続き、市役所による市民軽視のお役所仕事を追求します。



令和4年度一般会計決算歳出の内訳(目的別)



政策提言

令和5年9月議会一般質問では、①水道管の老朽化対策、②(小中一貫校の)西宮浜義務教育学校、③植栽帯の維持管理、④人口減少対策、⑤介護保険事業の5項目について取り上げて政策を提言し、市と議論しました。

私道に埋設された私有給水管を計画的に修繕するために、所有者の希望があれば市が引き取る制度の創設を提案。

■私有給水管の老朽化対策も課題

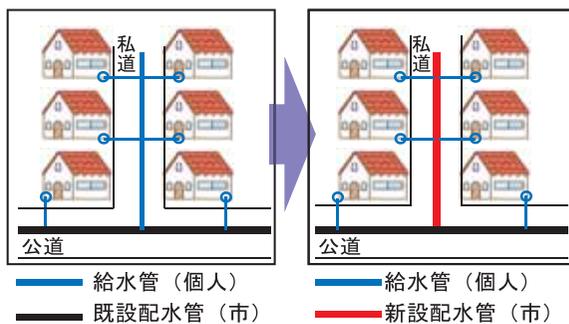
令和4年度の給水管(私有)の漏水修繕の件数は管類・付属物を合わせて623件で、市上下水道局(以下、市水道局)が無料で対応しています。近年は、年間600件前後を無料で対応し、そのほとんどが老朽化によるものです。工事費の原資は水道利用者が払う水道料金であり、将来的に水道料金にも影響を及ぼす可能性があります。

そこで、令和5年9月議会一般質問では、

●私道に埋設された共同利用給水管を市水道局が移管受けする制度を創設し、計画的に

する修繕するよう提案しました。市水道局は、引き取るための条件を整理すると、制度創設に向けて前向きに回答しました。

提案した制度のイメージ



人口が減少し始めている西宮市。JR西宮駅への新快速停車及び住宅建設段階で地域コミュニティの保全を誘導するよう提案。

■地域コミュニティを保全する対策を提案

市の開発行政では、建築物の高さ制限や景観等外観重視の誘導が行われ、文教住宅都市として良好な住環境を築く上で不可欠であった地域コミュニティの形成を誘導することができていません。また西宮市は、9戸以下の集合住宅の規制は緩く、今後、既存の戸建て住宅が、ワンルームや1LDKの9戸以下の集合住宅に建て替わるケースが増えれば、地域コミュニティがますます希薄化することが危惧されます。そこで、小規模開発や40㎡以下の住宅を2戸以上含む住宅についても、

- 建設前に完成後の建物の管理者や連絡先を近隣住民に対して説明する機会を設けてご近所付き合いを促す環境をつくり、
- 完成後もその内容が変更された際の届出を

義務化するよう提案しました。

市は、「過度の規制になる」として否定的な見解を示しました。市の取組みに地域の力を求めおきながら、地域コミュニティの希薄化を軽視した市の姿勢を、今後も追及し改善を求めて参ります。

■交通の利便性の向上を提案

人口を呼び込む観点から、交通利便性の向上による住宅地としての魅力向上と沿線の騒音緩和にもつながる対策として、

●JR西日本に対してJR西宮駅への新快速の停車を求めるよう提案しました。

市もその有効性を認めて求めていくと回答しました。今後も、皆様からのご意見を頂きながら政策提案を続けて参ります。



「介護サービスを利用したいのにできない。」介護難民を生まない環境整備を10年以上前から提案をしてきましたが。

■介護予防事業の効果検証と本来の目的達成を追求するよう指摘

労働人口の減少の影響が徐々に表面化していますが、介護人材の不足も市民生活に深刻な影響を及ぼします。そして私は、**介護需要を満たす介護人材を確保するためには、大幅な処遇改善が不可欠**と考えています。しかし、そのためには**介護報酬の引き上げも必要となり、サービスを受ける方の負担の増大のみならず、介護保険料が増加することも覚悟しなくてはなりません。**

そこで、その影響を抑えられるよう、介護予防事業の強化が急務と考え、平成24年9月議会で取り上げて以来、介護予防事業の実効性を高めるための提案も続けてきました。そして、令和5年9月議会一般質問では、8年前に提案した介護予防事業の定量的な効果検証の進捗を問い、

●既存事業のプログラムの改善と、認知症予防や運動機能の維持向上につながるメニューを増やすよう提案しました。

市は、従来からの「いきいき体操」に加えて、健康ポイント事業など、メニューを増やしたものの、効果検証をすることが目的化して事業の改善が遅く、**本来の目的の一つである要介護認定率の抑制が達成されていないことを指摘**しました。そして、**介護予防事業のメニューの増加、改善をスピード感をもって対応するよう求めました。**また、

■西宮市の要介護認定者数と割合の推移



●参加者数が低迷している「健康ポイント事業」の改善策として景品に「六甲保養荘の割引券」を入れるなどして、令和6年度以降も六甲保養荘を利用する高齢者に対する補助を継続するよう提案

しました。しかし、西宮市は提案を受け入れることなく、兵庫県は本年10月に、六甲保養荘を今年度末で閉鎖すると発表しました。



■介護予防事業の効果検証と事業の改善

75歳以上の高齢者が急激に増加することが見込まれている2025年度までに、国は32万人の介護職員を増やす必要があると試算しています。

私は、平成31年3月議会代表質問で、今後、市内で必要となる介護職員数を算出し、確実に人材確保をするよう求めましたが、現在の取り組みには反映されていません。そこで、

●来年度から始まる次期介護保険計画で、必要な介護職員数を試算し、確実に確保できるように介護職員の処遇改善や資格取得に対する支援の強化など対策を検討するよう提案しました。

市は、次期介護保険計画の中で対応すると回答しましたが、処遇改善については国任せにしています。

介護離職の問題や保険料負担の増大など介護保険制度に関する課題は、高齢者のみならず、全世代にかかわる問題であり、全市民と共有すべき情報と考えています。今後も重点的に取り組んで参ります。

この記事に対するご質問・ご意見は、nishinomiya@masatake.jpまでお寄せください。

小・中一貫教育の魅力が不明確。児童生徒数が減少し続ける 西宮浜義務教育学校の魅力と課題について議論しました。

教育環境

児童生徒数が大きく減少していた市立西宮浜小学校と西宮浜中学校を合併し、令和2年4月に、小・中一貫の「市立総合教育センター附属西宮浜義務教育学校」を設置しました。校区外からも通学可能な特認校としてスタートしましたが、児童数の減少に歯止めがかかっていないことから、学校の魅力と課題について議論しました。

■インパクトのある取組みが不可欠と指摘

市は質問に対する回答の中で、9年間を通じた外国語教育を特色として挙げましたが、小学1年生からわざわざ校区外の遠くまで通学させたいと思える特色を打ち出せていません。そこで、

●海に囲まれた産業団地内という立地と人材を生かした部活動の特色化や文化部も含めた既存部活動の強化

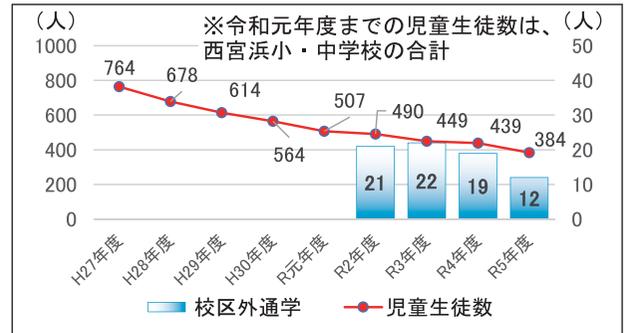
●市の都市型観光事業や産業団地内企業と連携して、通訳体験など9年間にわたる外国語学習の成果を発揮・体験できる環境整備

など、高校進学のことも含めて保護者や子供に分かりやすい、インパクトのある取組みが必要と指摘しました。

■校区外からの通学環境の改善を指摘

また、小学1年生でも校区外からの通学がしやすくなるよう、スクールバスの導入も視野に入れた交通環境の改善の必要性も指摘しました。しかし、人手不足が課題となっている中で、民間事業者がどこまで対応できるかは不透明です。ですので、住宅政策や地域とも連携して、西宮浜地域への子育て世代の移住を促進する政策も重要と考えています。今後も、様々な視点で対策を提案したいと考えています。

■西宮浜義務教育学校の児童生徒数の推移



この記事に対するご質問・ご意見は、nishinomiya@masatake.jpまでお寄せください。

約束のかたち：「市政・市議会報告」の発行の継続、「市政報告会・意見交換会」の開催

このチラシは、単なる広報やPR誌ではなく、市民の声を伺うきっかけとなる広聴のためのチラシでもあり、選挙前だけではなく定期的に作成してきました。このチラシを見て、掲載内容以外のことも含めてご意見を寄せてもらっています。すぐには実現できない内容も多いですが、だからこそ、今すぐ着手しなければならないこともあります。諦めずにご意見や情報をお寄せ下さい。

発行責任者

田中正剛 たなか まさたけ

profile

昭和50年7月生まれ/大阪府立四条畷高等学校、神戸大学工学部卒業/元市議員事務所にて4年間勤務した後、平成15年4月に西宮市議会議員選挙初当選（当時27歳）、現在6期目、教育こども常任委員会委員長

■これまでに就任した市議会での主な役職

厚生常任委員会委員長、西宮市監査委員、病院問題特別委員会委員長、阪神水道企業団監査委員、西宮市議会副議長、建設常任委員会委員長、民生常任委員会委員長、第88代西宮市議会議長（当時41歳）



■70号：あきらめずに

令和5年度一般会計予算、出産・子育て応援給付金、西宮市幼児教育・保育のあり方、高齢者に優しい移動環境の整備について掲載。



LINE
公式アカウント

← こちらのQRコードをスマートフォンのLINEアプリで読み取って、是非ともご登録下さい。